

2026年産 富富富栽培こよみ (JA米)

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会
JAアルプス富富富ブランド化推進協議会

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	75
㎡当たり粒数(粒)	30,000
登熟歩合(%)	80
玄米千粒重(g)	22.3

高品質な富富富につなげる5つのポイント

- 5/15中心の田植えに合わせた育苗作業
- 生育ステージに応じた水管理
- 初期茎数の確保
- 適期防除
- 適期刈取り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月						
青刈		5/15			7/13	8/4	9/13						
作業日程の目安	育苗期	田植え	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期					
水管理		1回目(田植期)	2回目	3回目(県下一斉)	4回目	5回目①	①又は②	5回目②					
管理のポイント		田植えは5月15日を中心	溝掘りは確実に	中干しは適期に開始	草刈りの徹底	中干し後は幼穂形成期まで間断かん水	適正な穂肥	出穂後20日間の湛水管理	基本防除2回の徹底	収穫までの水管理	適期収穫	適正な乾燥調整	土づくり

浸種期間はやや長めの育苗計画

○富富富はコシヒカリに比べて浸種期間を1～2日長くする。
○5月15日植えの育苗日数は20日程度を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
3/26頃	4/13頃	5/5	7/29頃
4/5頃	4/19頃	5/10	8/1頃
4/13頃	4/25頃	5/15	8/4頃
4/21頃	5/2頃	5/20	8/9頃

栽植密度は70株/坪

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○中干しは田植え後4週間までに遅れず開始することで根の伸長を促進します。
○中干しの効果を高めるため、中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう。

適度な中干し: 葉が直立、茎が太い、根量が多い。
中干し未実施: 下葉が枯れる、茎が細い、根量が少ない。

土壌に応じた適正な施肥量

施肥窒素量は、収量レベル540kg/10aのコシヒカリの2割減を基本とし、過剰とならないようにしましょう。砂壤土で低収の場合は基礎量を1割程度増やしましょう。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)				
	肥料名	施用量(kg/10a)	基肥	側条施肥量(kg/10a)	穂肥	施用量(kg/10a)	
砂壤土	富富富専用(21-10-19)	30	基肥206(12-20-16)	27	追肥3号(15-3-15)	1回目	5~7
						2回目	10~13
						5~7	10~12
粘質土	22	19	5~7	10			

病害虫防除・雑草防除体系

富富富の化学合成農薬(殺虫殺菌剤及び除草剤)の成分使用回数は12以内です。以下の防除体系を参考にして、適期防除をお願いします。

区分	薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数	
病	種子消毒	浸種前	200倍液(種子10kgに対し水20L、薬剤100cc)	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾブス菌、トリコデルマ菌)	1	
	苗箱施薬	播種時～移植当日	50g/箱(密苗は1kg/10a)	いもち病、紋枯病、イネメズソウムシ、イネドロイムシ	3	
	本田防除(粉剤)	ラブサイドキラップ粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	2
		スタークル粉剤DL	傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ等	1
		ラブサイドK2フロアブル	穂揃期	1,000倍液150L/10a(8倍液0.8L/10a)	いもち病、カメムシ類	2
	本田防除(液剤)	スタークル液剤10	傾穂期	1,000倍液150L/10a(8倍液0.8L/10a)	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ(150L散布)	1
マージョット1キ口粒剤		移植後3～5日まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ	1	
雑草防除	一発処理剤	初期剤散布7～10日後	1kg/10a	水田1年生雑草及び多年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ等	3	

合計11成分

コシヒカリとの作期分散で刈遅れ防止

【参考】富富富の田植日等の違いによる成熟期の目安

品種名	乾V直播播種日	田植日	成熟期(目安)	コシヒカリと成熟期の違い	
コシヒカリ		5/13	9/6		
		5/2	9/3	-3	
	富富富		5/14	9/12	+6
			5/20	9/16	+10
	4/25	9/17	+11		

田植え後の除草効果を高める水管理

- 代かきから田植えまでの日数は、3～5日程度とする。
- 藻類が発生している場合は、除草剤散布前に水の入れ替えや軽い田干しを行う。
- 除草剤散布時は、水口、水尻をしっかり止め、田面が露出しないよう水深5cmくらい保つ。
- 散布後5～7日間は止め水とし、水田外への流亡を防ぐ。
- 田面が露出する場合は、緩やかに入水する。また、畦畔等の点検を行い、漏水していないか確認する。

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!